

ARIBからのお知らせ

CEATEC JAPAN 2010 開催とARIB出展

CEATEC (Combined Exhibition of Advanced TEChnologies) JAPANは、通信・情報・映像が融合したデジタルネットワーク時代を反映した最新の技術・製品・システム・ソフトを一堂に集め、その成果を情報発信するアジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス総合展です。

今回で11回目を迎える『CEATEC JAPAN 2010』が10月5日(火)から5日間、幕張メッセにおいて開催されます。

当会は同総合展示会に協賛するとともに、ARIBブースを設けて、パネル展示や実機を使ったデモ等、最新の事業活動を紹介します。ぜひ、お立ち寄りください。

1 会期：特別招待日 10月5日(火) 10：00～17：00 (入場には特別招待券が必要)

公開日 10月6日(水)～10月9日(土) 10：00～17：00

2 会場：幕張メッセ (千葉県美浜区中瀬2-1)

ARIB出展場所：ビジネス&ソサエティゾーン (ホール4小間番号4B52)

3 ARIB出展内容

- (1) パネル展示を利用したARIBの概要、研究開発及び国際普及活動の紹介
- (2) 地上デジタル放送日本方式国際普及 (ISDB-T 8MHz帯域システム) 実機展示
- (3) ARIBの事業概要紹介ビデオの放映
- (4) インターネットを利用したARIB標準規格ダウンロードサービスの紹介

4 会場へのアクセス JR京葉線 海浜幕張駅 (会場まで徒歩7分)

:

JR総武線 幕張本郷駅、京成線 幕張本郷駅 (会場までバス15分)

5 入場：全来場者登録入場制

※入場料が無料となるWeb事前登録をお薦めします。

詳細は、CEATECのWebサイト

(<http://www.ceatec.com/2010/ja/index.html>) をご覧下さい。

第77回規格会議で承認された標準規格等の電子ファイルの提供について

平成22年7月15日に開催された第77回規格会議で承認された以下の標準規格1件(策定)、標準規格9件(改定)及び技術資料6件(改定)の電子ファイルをホームページにアップロードしましたのでお知らせいたします。

- (1) 簡易無線局950MHz帯移動体識別用無線設備標準規格 (ARIB STD-T100 1.0版)
- (2) 構内無線局950MHz帯移動体識別用無線設備標準規格 (ARIB STD-T89 3.1版)
- (3) 特定小電力無線局950MHz帯移動体識別用無線設備標準規格 (ARIB STD-T90 2.1版)
- (4) 特定小電力無線局950MHz帯テレメータ用、テレコントロール用及びデータ伝送用無線設備標準規格 (ARIB STD-T96 1.1版)
- (5) IMT-2000 DS-CDMA and TDD-CDMA System 標準規格及び技術資料 (ARIB STD-T63 Ver.8.10及びARIB TR-T12 Ver.8.10)
- (6) IMT-2000 MC-CDMA System 標準規格及び技術資料 (ARIB STD-T64 Ver.5.20及びARIB TR-T13 Ver.5.20)
- (7) 広帯域移動アクセスシステム(CSMA)標準規格 (ARIB STD-T71 5.1版)
- (8) デジタル簡易無線局の無線設備標準規格 (ARIB STD-T98 1.2版)
- (9) 狭域通信(DSRC)アプリケーションサブレイヤ陸上移動局の接続性確認に係る試験項目・試験条件技術資料 (ARIB TR-T17 2.2版)
- (10) デジタル放送用受信装置標準規格(望ましい仕様) (ARIB STD-B21 5.0版)
- (11) 地上デジタルテレビジョン放送の伝送方式標準規格 (ARIB STD-B31 1.9版)
- (12) 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料 (ARIB TR-B14 4.2版)
- (13) BS/広帯域CSデジタル放送運用規定技術資料 (ARIB TR-B15 5.0版)
- (14) 放送チェーンにおける映像・音声信号の障害監視のためのメタデータ技術資料 (ARIB TR-B29 1.1版)

電子ファイルのダウンロードが初めての方は、以下のARIBホームページの注意事項等を確認の上、行って下さい。

http://www.arib.or.jp/tyosakenkyu/kikaku_tushin/index.html

ダウンロードリスト（一覧表）へのリンクも、上記ページに張られています。

「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」報告書の公表
及び「ホワイトスペース特区」先行モデル決定

【平成22年8月6日総務省報道資料から】

総務省は、平成21年12月から、ホワイトスペースの活用など新たな電波の有効利用の促進に向けた検討を行うため、「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」（座長：土居 範久 中央大学研究開発機構教授）を開催してきました。今般、報告書が取りまとめられましたので公表します。

また、この中では、ホワイトスペース活用の制度化等を促進するため「ホワイトスペース特区」の創設が提言され、本検討チームにおいて、この先行モデルについても決定されましたので、併せて公表します。

本報告書の提言を踏まえ、今後速やかに所要の施策を講じていく予定です。

詳細は<http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban09_01000001.html>をご参照ください。

なお、本公表資料の一部を以下に掲載します。

「ホワイトスペース特区」先行モデルについて

1

- 「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」では、「**ホワイトスペース特区**」を創設し、ホワイトスペースを活用したサービスやシステムの研究開発や実証実験を行い、制度化への反映やビジネス展開の促進につなげていくことを提言。
- ※ 「ホワイトスペース特区」の先行モデルについては、ホワイトスペースの活用方策等に関する提案募集の提案者から選出し、公開ヒアリングを経て決定。

先行モデル対象者	実施内容	場所
株式会社 湘南ベルマーレ	ワンセグによるスポーツ映像等の配信	神奈川県平塚市(平塚競技場、商店街等)
株式会社 TBSテレビ	赤坂サカス放送プロジェクト	赤坂サカス(東京都港区)
株式会社 トマデジ	ICT-Transport連携サービス	鹿児島中央駅及び周辺観光地
日本空港ビルディング株式会社	空港連携ワンセグ・サービス	羽田空港
株式会社 デジタルメディアプロ	地下空間におけるマルチメディア放送局	東京メトロ・東急 表参道～二子玉川 等
兵庫県地域メディア実験協議会	エリアワンセグを活用した地域限定放送局	神戸市長田区
宮城県栗原市	エリアワンセグによる災害情報等の配信	栗原市(市役所、公民館等)
YRP研究開発推進協会	エリアワンセグによる地域情報等の配信	神奈川県横須賀市(YRP地域)
社団法人 日本ケーブルテレビ連盟	CATV網を活用した地域ワンセグ放送	愛媛県新居浜市((株)ハートネットワーク)
	スーパーハイビジョンの実験	世田谷区砧(NHK放送技術研究所)
日本放送協会	エリアワンセグを活用した被災地情報の配信	名古屋市付近

「地デジ難視聴対策衛星放送対象リスト（ホワイトリスト）」（第3版）の公表

【平成22年8月10日総務省報道資料から】

総務省及び全国地上デジタル放送推進協議会では、地上テレビ放送のデジタル化により難視聴となる地域に対し、暫定的・緊急避難的な措置として、衛星放送により地上デジタル放送の番組を送り届けることとしています（以下、このための事業を「暫定的難視聴対策事業」という。）。

この暫定的難視聴対策事業として、国の補助金と放送事業者の負担金を受け、社団法人デジタル放送推進協会が地デジ難視聴対策衛星放送を実施しており、同放送の対象地区及び視聴できる放送番組等は「地デジ難視聴対策衛星放送対象リスト（ホワイトリスト）」として公表しています。今般、各地域における難視聴対策の実施状況を踏まえ、対象地区等を更新したホワイトリスト第3版を総務省ホームページ

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/dtv/datashu/whitelist/index.html

において公表しますので、お知らせします。今回の更新概要は次のとおりです。

	初版（1月29日公表）	第2版（4月16日公表）	第3版（8月10日公表）
対象市町村	7市町村（3都県）	26市町村（15都道県）	190市町村（30都道県）
対象地区数	55地区	118地区	1,501地区
世帯数	5,407世帯	11,085世帯	41,469世帯

※各都道府県別の総括表は、下記のURLをご覧ください。

http://www.soumu.go.jp/main_content/000077146.pdf

詳細は<http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu10_01000001.html>をご参照ください。

8月3日の第74回電波利用懇話会「地上デジタル放送の利活用の在り方と普及に向けて行政の果たすべき役割」を聴講し、アナログ停波に向けていろいろと対策が行われていることを改めて認識しました。我が家も既に地デジ対応TVに切り替え、来年7月までにアナログDVD機を地デジ対応に買い換えなければと思っていたところ、契約しているケーブルテレビから電話があり、本年秋までアナログ送信を終了するため、ケーブルテレビのデジタルチューナへの交換を促されました。工事の日時を予約すると同時に、デジタルチューナ交換の内容を聞いたところ、今我が家で使っているアナログDVD機では、デジタルチューナからのアナログ出力を使ってHDDに記録出来るがDVD-Rディスクに移せないとのこと。仕方なく工事を延期しましたが、ケーブルテレビのアナログ送信終了までにDVD機の買い換えの対応も必要になりました。

(H.K)